

自ら学び、共に学び合う「考える力」の育成
―地域の教育資源を活用した体験活動を通して―

日立市立東小沢小学校

1 はじめに

中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」では、学力観について「基礎的な知識・技能の育成と、自ら学び考えるの育成とは、この両方を総合的に育成することが必要である。」と明示された。さらに、「総合的な育成」とは、「基礎的な知識・技能を徹底して身に付けさせ、それを活用しながら自ら学び自ら考える力などの『確かな学力』を育成し、『生きる力』をはぐくむ」ことにあるとした。すなわち、教科等の基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用し自ら考え、判断し、表現することにより、課題を発見し、積極的に問題解決をする力の育成をすることが重要となる。

身のまわりにある様々な問題状況について、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するためには、地域に出かけたり、様々な体験活動を行ったり、多くの人と出会ったりして学んでいかなければならない。その中で、実際の社会や日常生活で活用できる能力を身に付けていくことができる。また、自らの生活を振り返り、一人一人が自分の生き方を考えていくことへと発展していく。よって、自ら学び、自ら考える力を育成することが、必要となってくる。

さらに、変化の激しい社会を生きる子どもたちが、自然体験などの活動の機会の減少にある実態を考えると、地域の教育資源の活用を通して、多様な体験活動の充実を図っていく意義の深さを感じる。そこで、体験活動を学習活動の根幹とし、感動したり、驚いたりしながら自ら課題を見つけ、解決に向けて追究していくことで、多様な能力や知識、技能を身に付けることはできないかと考えた。未来を拓く主体性のある子どもの育成を求め、体験活動を通して、各教科、道德の時間、特別活動及び総合的な学習の時間それぞれの特質に応じた学習を展開していこうと考えた。また、課題解決に向けた資料分析や思考・判断の力を身に付け、まとめや表現をすることで、共に学び高め合いながら、「考える力」の育成をめざした指導を探究していくこととした。

2 研究のねらい

地域の教育資源を活用した体験活動から、資料収集や話し合いなどによる学び合いを通して、共に高め合う、「考える力」の育成をめざした指導のあり方を追究する。

3 研究の仮説

教科・領域において、地域の教育資源を活用した多様な体験活動を行い、互いに協同的な課題解決をめざした学習を行うことによって、共に自分の考えを高め合うことができ、「考える力」が育つであろう。

4 研究の内容

(1) 「考える力」が育つ課程について

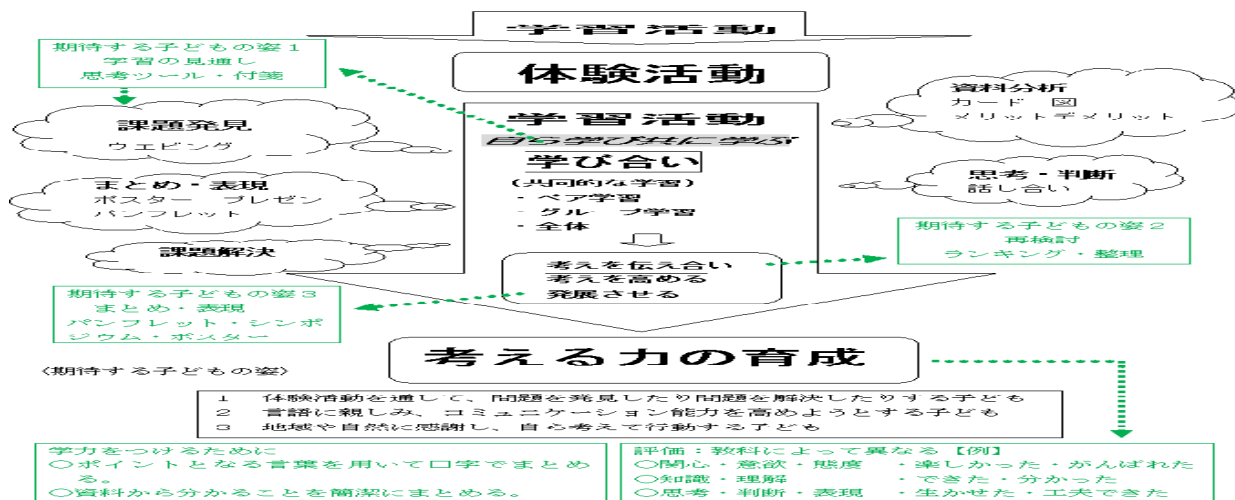
探求的な学習において、まず、日常生活や社会に目を向け、自ら課題を設定する。その課題に対して、情報を収集し、集めた資料を必要な物を整理し、分析をする。それらを分かりやすくまとめ表現することで探求の過程が繰り返され新たな課題が見い出される。

多様な考えを持つ他者と関わりながらお互いの情報を活用して学んだり、異なる視点からの意見を受け入れながら力を合わせたり交流したりすることを通してさらなる学びへと発展していく。このような協同的な学習を進めていく中で一人一人の「考える力」は高まっていくと考える。自分の考えを広げたり、整理したりする手立てとして、思考ツールを用いた活動を学習に取り入れることで、「考える力」を高めていこうと考えた。(資料1)

(資料1)

〈研究主題〉

自ら学び、共に学び高め合う「考える力」の育成
～地域の教育資源を活用した体験活動を通して～



(2) 主題に迫るために

① 付箋の活用

これまでの学習では、意見交換や作品鑑賞などで付箋を使用してきた。この付箋を、自分の考えをさらに広げたり、整理したりするときにも使用し、学習を深める新たな手立てとして活用した。

② 思考ツールの活用

思考ツールは、多様な考えを引き出したり、整理したりするのに有効である。課題が明示されているため、自分の考えを広げるヒントとなり、容易に考えを書くことができる。まとめや発表の時も、構造的に記入してあるので分かりやすい。また、考えを取捨選択したり、関係づけたりするのに有効である。つまり、思考ツールによって、情報が可視化され子どもの思考が方向付けられる。このことで、「考える力」が育成された児童の姿が実現され、子ども一人一人に思考力が育まれると考える。

③ 体験活動を取り入れた学習の工夫

疑問に思ったことや調べたいことを課題として、自ら課題解決を進める方法を見つけたり、資料を収集し、分析したりする力を高めるために、計画的に体験活動を取り入れることにした。年間の計画を立てることで、教科・領域との関連を図り、総合的に学習を展開することができた。(資料2)

(資料2)

自ら学び、共に学び高め合う「考える力」の育成 ～地域の教育資源を活用した体験活動を通して～ 平成27年度 日立市立東小沢小学校						
	1年	2年	3年	4年	5年	
4月						○夢はかならずかなう(総合)
5月	○はなややさいをたてよう(生活)			○田植え体験(総合) ○おまつりのお話(総合)	○田植え体験(総合) ○おまつりのお話(総合)	
6月	○久慈川菜の花エコネットワーク推進事業(刈取り)(生活・総合)	○町たんけん(社会) ○交流会(生活)	○学区たんけん(社会) ○交流会(生活)	○田の観察(総合) ○田のお世話(総合)	○田の観察(総合) ○田のお世話(総合)	
7月		○学校のまわり(生活)	○学校のまわり(生活)	○エコロエコロプロジェクト(総合) ○田に集まる生き物(総合)	○エコロエコロプロジェクト(総合) ○田に集まる生き物(総合)	○ユニクロエコロプロジェクト(総合) ○筑城新聞出前授業(総合)
8月	○久慈川菜の花エコネットワーク推進事業(とらみ体験)(生活・総合)					
9月		○野鳥のかんきつ(生活)	○野鳥のかんきつ(総合) ○黒川水質調査(総合)	○米作りのお話(総合) ○野鳥の観察(総合)	○米作りのお話(総合) ○野鳥の観察(総合) ○黒川水質調査(総合)	
10月	○久慈川菜の花エコネットワーク推進事業(種まき)(生活・総合)			○種刈り・だっこ(総合)	○種刈り・だっこ(総合)	
	○三世代交流会(行事)					
11月				○スポーツにこころプロジェクト(総合)	○スポーツにこころプロジェクト(総合)	○スポーツにこころプロジェクト(総合)
12月						
1月	○おかしあそび(総合)	○野鳥のかんきつ(生活)	○野鳥のかんきつ(総合)	○野鳥の観察(総合)	○野鳥の観察(総合)	
2月	○久慈川菜の花エコネットワーク推進事業(保管作業)(生活・総合)					
3月						

5 研究の実践

(2) 第6学年1組 総合的な学習の時間「エコネットワーク作戦」

① 本時の活動

ア 目標

- ・「なっちゃん油」のCMの内容を考えることができる。

イ 展開

※は本校のテーマと関連

児童の活動	指導の手立てと評価（◎は個に応じた手立て）	
	T 1	T 2
1 本時の学習課題をつかむ。 【全体】 「なっちゃん油」のCMの内容を考えよう。	・学習の流れを説明し、本時はCM作りを通して地域の良さや菜の花活動について理解できるようにする。	・学習の流れを示し、見通しを持って活動できるようにする。
2 「なっちゃん油」のCMで紹介をする内容を考える。 (1) ウェビングマップを用いてCMに取り入れたい内容や場面について考えを広げ、グループで話し合う。 【個人→グループ】 ・地域の人の協力 ・花がきれい ・収穫が楽しみ ・刈り取りがたいへん ・夏休みのとうみ ・しぼりたての油の香り ・なっちゃん油の料理 (2) PMIを用いてそれぞれの考えを分かりやすくまとめる。【グループ】 P 良いところ M 悪いところ I 興味のあること 地域の方と協力 ・なっちゃん油が楽しみ ・花がきれい作業が大変 ・なっちゃん油が売っていない料理 ・電車から見る菜の花	◎活動の流れや活動の説明など全体へ指導をしながら気になる児童への支援をする。 ※それぞれに考えた内容をさらに深めるよう友達の考えを参考にして学習を進められるようにする。 ◎意欲的に活動している児童を称賛し、クラス全体の意欲の向上を図る。 ※色分けした付箋紙を用いて観点ごとに分類し、考えをわかりやすく可視化してまとめるようにする。 ・同じような内容のものは、1つにまとめるよう声を掛ける。	◎全体の指導に補足が必要な児童とかかわり、意欲的な活動ができるように支援する。 ※一人一人の内容をチェックし、参考になる考えをグループ内で紹介し、協同的な学習をしながら考えを高め合えるようにする。 ◎迷ってしまうことの多いA児には、今までの菜の花体験を思い起こし、心に残っていることを書くように助言する。 ・話し合いが停滞しているグループには、みんなの中心となっている児童の様子を紹介して、活動の参考にするよう助言する。 ※同じ内容の付箋をまとめ、見やすく整理する。
3 全体でまとめる。【全体】 ○ CMにする内容を決める。 ・地域の人の協力 ・菜の花栽培のみんなのがんばる姿 ・菜の花の風景 ・なっちゃん油を使ったクッキング	※全体でまとめ、他の考えが参考にできるようにする。 ◎Mに示した活動の苦労は、短所ではあるが、頑張りや協力などのPにも繋がってくることに気づくように助言する。	◎気づいたことをなかなかまとめられない児童には、PMIを参考にするよう助言する。 ・全体で考えたCMの内容を板書し、分かりやすくまとめる。

4 本時のまとめと振り返りをする。【個別】 ○ 本時の自分の活動の反省をまとめる。	・気づいた地域の良さを確認する。 ※ウェビングマップやPMIの活用や友達の意見を参考に考えが深まったか振り返るようにする。	◎自分の思いを伝えることが苦手なB児には、ワークシートに書いたことから本時の頑張りを認めるようにする。
--	--	---

② 考える力を高める活動の工夫と児童の変容

ウェビングマップにより、個人の考えを引き出し、友達と意見交換をすることでさらに考えを広げることができた。友達の意見を通して自分を振り返り新たな考えや課題を見いだすことができた。これまでの話し合い活動から、友達の考えを聞いたり、自分の意見を述べたりするうちに新たな発見ができることを学び、グループでの活動を楽しみにしている児童がでてきた。異なる視点から協同的に学ぶ効果がみられた。

PMIでは、考えたことを分類してさらに考えを整理することができた。分類することで、CMに使いたい事柄が明確にすることができた。今まで活動した写真や自分たちが作った看板を掲示することで、活動を振り返ったり、考えるためのヒントにしたりできた。可視化が、考える活動のヒントになった。

ウェビングマップやPMIを学習活動に取り入れることで、容易に考えを広げることができるようになった。考えを広げることの楽しさや奥深さを一人一人が自覚するようになり、学習活動の活性化に繋がった。総合的な学習の時間に限らず全ての学習活動の場面で意欲的な考える活動が行えるようになった。

資料9 思考ツールを用いた活動の様子



6 成果と課題

地域の教育資源を活用した体験活動を通して、児童が自ら意欲的に課題を発見し、課題解決をしていくという問題解決型の学習展開を図ってきた。教師は、課題解決のヒントとなる手立てを講じたり、思考ツールを活用したりして、児童それぞれの考えを広げ、まとめられるように支援をしてきた。その結果、児童は、自分で調べる方法を見つけたり、集めた資料から必要な情報を選んだりする力が伸びたと感じている。身近な地域に関連した体験学習は、学習意欲を高め、学習を進めていくことに大変有効であった。また、「児童相互の学び合い高め合い」を意識して思考ツールの活用に取り組んだことにより、自分の考え・発想を書き出し、友達と話し合うことで多様な考えを引き出すことができた。思考ツールは問題解決型学習の流れの中でどの場面でも有効に活用できることが分かった。このような取り組みから、児童の「考える力」が伸びていると考えている教師が増えている。以上のことから、思考ツールや付箋などを用いた学び合い場において、協同的な学習を取り入れることで、共に学び合いながら高め合うことができ、「考える力」の育成に有効であった。今後は、さらに活用を広げていきたい。